

| | | | |
|---------|---|------|-------|
| 授業科目名 | 文学 | 担当教員 | 小野 正嗣 |
| 必修の区分 | 選択 | | |
| 単位数 | 1単位 | | |
| 授業の方法 | 講義 | | |
| 開講年次 | 1・2年 第2クォーター | | |
| 講義内容 | <p>「文学」とは何か、それがなぜ人間にとって、社会にとって必要なものなのかを根源的に考察する。本講座では、日本文学、海外文学といった区分をすることなく、ダイレクトに文学とは何かについて考えていく。そのため、講義は、様々な文学に触れることと、実際にそれを書いてみることの両面で構成され、相互補完的に、文学とは何かについての探求を行う。</p> | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文学とは何かについての理解する。 2. 文学を単なる娯楽や芸術ではなく、人間が生きていく上での重要なツールとして「文学的手法」を身につける。 3. 文学と呼ばれるものの範囲の想像以上の広さを理解し、多角的、多面的な「文学観」を手に入れる。 | | |
| 授業計画 | <p>ここで述べる「文学」の定義は講義で行なう。 それを講義前に明かすことは、講義の妨げになるのでできない。理解されたし。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 とりあえず「文学」に直面してみる 2 それから「文学」に触ってみる 3 その次は「文学」のあちこちを観察する 4 時には「文学」を凝視して、知らないうちに変化するかどうかチェックしてみるのもいいかも 5 「文学」に慣れた頃だから、そろそろ「文学」と友だちになってみる 6 「文学」に「わたしたち、友だちだよな？」と訊いてみる 7 「文学」が「うん、友だちだよ」といったら、次に進む。 「えっ、そうだっけ？」といわれたら、もう一回、1からやり直し 8 「文学」と友だちになったのだから一緒に何かをやってみる 9 「文学」と一緒に何かをやった結果がどうだったかを考える 10 そろそろ準備ができた頃なので何かを書いてみる 11 書いたものをこっそり「文学」に見せてみる 12 「文学」と共同発表をする | | |
| 事前・事後学習 | <p>講義前には、できるだけ自分が「文学」と思うものを読んでおく 講義後も、同じ</p> | | |
| テキスト | 世界中の本 | | |
| 参考文献 | 世界中の本 | | |
| 成績評価の基準 | どの程度「文学」と友だちになれたか | | |

| | |
|----------------|--------|
| 履修上の注意 履修要件 | なし |
| 実践的教育 | 該当しない。 |
| 備考欄 | |